



# 曾谷の風

学校教育目標「『ゆめ あすから』チャレンジする子どもたち」

東国分爽風学園  
市川市立曾谷小学校  
校長 田部井 伸郎

[→爽風学園ブログはこちら](#)

[→「爽風だより」はこちら](#)

[→学校ホームページはこちら](#)

曾谷っ子の合言葉

「元気・本気・勇氣」～3つのキを育てよう～



## 少人数学習（3年生）

3年生が算数で少人数学習に取り組んでいます。単元は「表とグラフ」です。この学習は重要な単元であり、注力して取り組む必要があります。

そこで3年生では、担任2名に、少人数指導担当の石橋先生を加え、3グループ体制で授業を行います。

3グループにすることで、平均約17名という少人数体制を敷くことができます（「少人数指導担当」とは、主にこういった指導をするために配置されています）。少人数学習のメリットは「きめ細やかな学習」が可能となる点です。普段より人数が少なくなるので、その分児童と先生が接する時間が多く確保でき、児童一人ひとりの習得状況を把握しやすくなります。

児童にとっても、人数が少ないので、先生に質問しやすい状況です。

その結果、子どもたちは学力の向上が期待できます。学習ができるようになることで、自信や自己効力感を高めることができる。そして自信や自己効力感は、子どもたちの夢や希望につながると考えています。 [→学校ホームページ記事](#)



## 届けよう町じまん（5年生）

5年生は国語の学習で、相手に対してどのように伝えることが効果的なのか、情報を集めたり、整理したりする言語活動に取り組んでいます。目的や相手意識を明確にすることで、子どもたちに力をつけていきます。

内容は、子どもたちが身近な曾谷の町について、自分が自慢したい場所を取り上げ、それを地域の方に聞いてもらうという活動を行いました。



町じまんに挙げているのは子どもそれぞれ。曾谷貝塚、馬坂、桜並木通り、山王公園、春日神社、各種店舗、道の駅いちかわ、各種お祭りなど多岐にわたります。皆さんならどこを取り上げるでしょうか？この発表の活動のため、学校地域協働活動推進員の石橋さんをお願いして、地域の方々を募っていただきました。

その結果、2日（水）は12名、4日（金）は10名、延べ22名もの保護者・地域住民の皆さんにお集まりいただきました。

子どもたちは、一生懸命に調べ、文章の構成を工夫し、わかりやすく伝える学習をしました。自分の発表を地域の方に褒めてもらおうと、担任の先生から褒められるのとはまた違った嬉しさがあります。

こういった触れ合いも地域の方に学習へ入っていただく良さです。授業の後、地域の方に集まっていたき、お話を伺いましたら、皆さん「子どもたちと話せて良かった」「曾谷の町の魅力に改めて気づいた」ということで喜んでいただきました。

学校だけがよい思いをするのでなく、地域の方々にも喜んでいただけたのであれば本当に良かったです。 →[学校ホームページ記事](#)

### 認知症サポーター養成講座（6年生）

1日（火）に、高齢者サポートセンターの職員の方を講師にお迎えして、6年生を対象に「[認知症サポーター養成講座](#)」が開催されました。

市川市では、ご存じの通り「[健康寿命日本一のまち](#)」を目指していろいろな取組が行われています。認知症になっても安心して暮せるまちづくりをめざして「認知症サポーター養成講座」が様々なところで行われているのです。

認知症サポーターは、「認知症を正しく理解し、偏見を持たずに、認知症の方やその家族を応援するボランティア」です。超高齢社会においては、小学生のうちから正しい理解があるとよいでしょう。

6年生の子どもたちは「認知症サポーター養成講座」を受講したので、認知症サポーターの証が交付されました。腕に巻く子、名札につけた子、オレンジ色の証をつけて立派な認知症サポーターの誕生です。 →[学校ホームページ記事](#)



### 公園探検（1年生）



4日（金）に1年生が生活科の学習で、[弁天池公園](#)まで行きました。暑い中、1年生は頑張りました。

公園探検ですが、行く途中の学区探検も含んでいます。曾谷小学校の学区は、大きくは坂下と坂上に分かれますので、特に移動範囲の狭いであろう1年生は、坂下の子は坂下で、坂上の子は坂上で遊ぶことが多いようです。

坂下の子は、坂上の子がいろいろ教えている様子も見られました。公園でもいい学習ができたようです。

次回は夏休み明け9月4日（木）の予定です。 →[学校ホームページ記事](#)

### お知らせ欄

○千葉県環境生活部より「[青少年非行防止チラシ（小学生用）](#)」の周知依頼が来ました。必要に応じてご活用ください。よろしくお願いいたします。